

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

「中東地域研究による量的・質的データの収集と活用：エジプト・チュニジアの貧困・人口・移動の例」

岩崎 えり奈（上智大学外国語学部）

本講義では、中東地域研究における量的データと質的データの収集と活用の方法をテーマに、まず地域研究の材料としての量的・質的データについて説明した。

地域研究の材料には、法律・法令、裁判記録等や手紙、伝記、新聞記事、小説等といった記述資料、国勢調査（センサス）や各種統計公刊資料、世帯調査、家計調査、世論調査等などのアンケート調査、聞き取り調査、参与観察によって得られるデータ・情報、地図など様々なものがある。このうち、統計資料やアンケート調査によって得られるデータは量的データ、記述資料、聞き取り調査や参与観察から得られる情報などは質的データに一般的に分類される。

ついで地域研究において量的と質的データを組み合わせた地域研究の手法を紹介するため、報告者がエジプトで行ってきた事例調査研究をとりあげた。第一は、大カイロにおける貧困の実態についてであり、エジプト中央統計局が実施する「消費と所得の世帯調査」と大カイロ周辺部の 3 地区で一橋大学とエジプト中央統計局が行った世帯調査データを用いた。世帯調査データを分析した結果、大カイロにおける貧困は周辺部で高くなっており、一時的な貧困によって特徴づけられることが明らかになった。

第二は、大カイロの発展であり、一見して「無秩序」に見える大カイロの発展を紙地図とデジタル地図、人口センサスと世帯調査のデータを用いたほか、聞き取り調査で補足して分析した。その結果、大カイロの空間的発展が農村－都市移動と密接に結びついており、それぞれに特定の地域と結びついており、それが大カイロのそれぞれの地区の多様性を作りだしていることが明らかになった。

参考文献

Erina Iwasaki and Heba El-Laithy, (2013), "Estimation of Poverty in Greater Cairo: Case Study of Three 'Unplanned' Areas". *African Development Review*, 25, (2), 173-188

Erina Iwasaki (2019) "Inequality and Poverty in the Suburbs. The Case of Metropolitan Cairo", In eds. Bernadette H. and Thomas J. V. *The Routledge Companion to the Suburbs*. Routledge

岩崎えり奈（2009）『変革期のエジプト社会－マイグレーション・就業・貧困』書籍工房早山

岩崎えり奈 (2016) 「エジプトの「革命」——民衆は時代の転換に何を望んだか——」松尾
昌樹・岡野内正・吉川卓郎編著『中東の新たな秩序』ミネルヴァ書房